

## 「国語科教育」投稿要領

(昭和63年10月21日制定) (平成6年10月20日修正) (平成7年11月4日修正)  
(平成10年10月18日修正) (平成12年10月14日修正) (平成13年5月13日修正)  
(平成15年10月11日修正) (平成24年5月26日修正) (平成25年5月18日修正)  
(平成28年5月27日修正) (平成29年5月28日修正) (令和2年6月28日修正)  
(令和3年1月20日修正) (令和5年1月26日修正)

### 投稿論文の内容および体裁について

1. 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリント類の場合はこの限りではない。なお、他誌に掲載された自らを著者とする論文と著しく重複する内容の論文を、投稿してはならない。
2. 重複投稿の禁止  
本誌『国語科教育』に投稿された論文等はその採否が決定するまで国内・国外を問わず他誌に投稿することはできない。また、他誌に投稿中のものは受付けない。
3. 募集枠は、「研究論文」「実践論文」「資料」の三つのカテゴリーとする。どの枠に応募したものであるかが分かるように、そのことを題名の前に明記する。ただし、採択の枠付けに関しては、編集委員会の最終的な判断によるものとする。  
研究論文：独創的な知見を含む学術研究。  
実践論文：国語科の先行実践をふまえて、新たな実践の方向性や意義・価値について学術的な根拠に基づいて論じたもの。  
資料：国語科教育学に関する基礎的データや国語教育の実践・研究に関する情報を提示したもの。
4. 連続掲載は、原則として2回までとする。
5. 論文原稿は、縦書きまたは横書きで、原則としてパソコンを使用する。
6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字詰原稿用紙ほぼ40枚（8ページ分）以内とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。
  - (1) 横書きの場合  
23字×44行×2段（1ページ2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）
  - (2) 縦書きの場合  
33字×31行×2段（1ページ2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）
  - \* 学会ホームページに記載している、投稿原稿用のテンプレートを必ず使用すること。
  - \* 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りではない。
  - \* 図表は本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は8割以上とする。
7. 原稿は以下の体裁で整えること。
  - (1) 論文本体
    - \* 表題の下に、投稿論文に関わるキーワードを記すこと。
    - \* 論文には氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないこと。（書かれている場合は審査対象から除外されます）

(2) 注（ただし，引用のための注はつけない）

(3) 参考文献

\* 論文本体や注，参考文献に「拙稿」「拙著」など，投稿者名が判明するような記述を行わないこと。

(4) 研究助成を受けた場合の記載

\* 科学研究費等の助成を受けた場合は，書き手が特定されないように，課題番号部分を以下のように記載すること。

（例：本研究は，JSPS科研費課題番号 \*\*\*\* \* の助成を受けた）\*の数は課題番号の文字数に合わせること。

## 8. 引用文献の記載について

(1) 引用文献の記載方法は，原則としてAPAスタイルに準拠する。

(2) 本文中における引用の記載方法は，次の通りである。

① 著者が一人の場合は，著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

……（高橋，2010）。……（Black，1988）。

高橋（2010）は，……。Black（1988）は，……。

② 著者が二人の場合は，両方の著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

……（高橋・鈴木，2012）。……（Black & White，1992）。

高橋・鈴木（2012）は，……。Black & White（1988）は，……。

③ 同一刊行年の文献は，刊行順にa, b, c, を刊行年に付し区別する。

佐藤学（1999a）『教育時評 1997-1999』世織書房

佐藤学（1999b）『学びの快樂 ダイアローグへ』世織書房

(3) 論文末に，日本語文献と非日本語文献とに分けて参考文献を記載する。日本語文献は著者の姓の五十音順に，非日本語文献は著者の姓のアルファベット順に参考文献を掲載する。翻訳文献は，非日本語文献として記載する。記載方法の例は，次の通りである。

① 学術誌の論文

石井庄司（1953）「国語教育学の完成を期して」『国語科教育』第2号，1-4.

Posner, G. J., Strike, K. A., Hewson, P. W., & Gertzog, W. A. (1982). Accommodation of a scientific conception: Towards a theory of conceptual change. *Science Education*, 66(2), 211-227.

② 書籍

全国大学国語教育学会編著（2013）『国語科教育学研究の成果と展望 2』学芸図書

大槻和夫（1997）「国語科教師における国語教育学の目的と体系」全国大学国語教育学会編『国語教育学の建設1 国語科教師教育の課題』明治図書，1-104.

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second international handbook of science education*. Dordrecht, Netherlands: Springer.

Wertsch, J. V. (1991). *Voices of the Mind: A sociocultural Approach to Mediated Action*, Cambridge, Mass: Harvard University Press. 田島信元他訳（1995）『心の声—媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版.

③ オンラインからの引用

文部科学省（2011）「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/genngo/1301088.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/genngo/1301088.htm)（〇年〇月〇日確認）

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:

[http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc\\_id=796](http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc_id=796)

(4) 本文中の文献ページ数の記載は、以下のいずれかの方法に従う。

- ① 発行年の後に「:」（コロン）を入れて「著者名（発行年:ページ）」とする  
例：石井庄司（1957:2）は「○○○」と述べている。
- ② 引用の最後にページ数を明示する。  
例：石井庄司（1957）は「○○○」（p.2）と述べている。
- ③ 注の形式（脚注、または、巻末注）で、参照する文献のページ数を明示する。  
例：石井庄司（1957）は「○○○」<sup>1</sup>と述べている。 注1. 石井庄司（1957）p.2

### 原稿を投稿するにあたって

9. 学会ホームページから電子投稿システムによって投稿すること。投稿に際しては、論文の電子ファイル（WordファイルまたはPDFファイル）が必要になる。なお、英文要旨と日本語要旨は論文掲載決定後に提出となる。
10. 投稿論文は、上期においては8月1日から8月31日までの期間、下期においては3月1日から3月31日までの期間に受け付けるものとする。
11. 著作権について  
本誌『国語科教育』に掲載された著作物（電子媒体への変換による利用も含む）の複製権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は本学会に譲渡されたものとする。著作者自身のこれらの権利を拘束するものではないが、再利用する場合は事前に本学会宛に連絡をする。
12. 投稿資格について  
投稿にあたっては著者全員が会員資格を有し、当該年度までの年会費を納入していること。